

都市OSの現状報告

DX基本構想及びDX基本計画では、目指す姿「ゆとりある暮らし」「全体最適なまち」を実現するための4つの柱の一つに、「データ連携」を定めています。

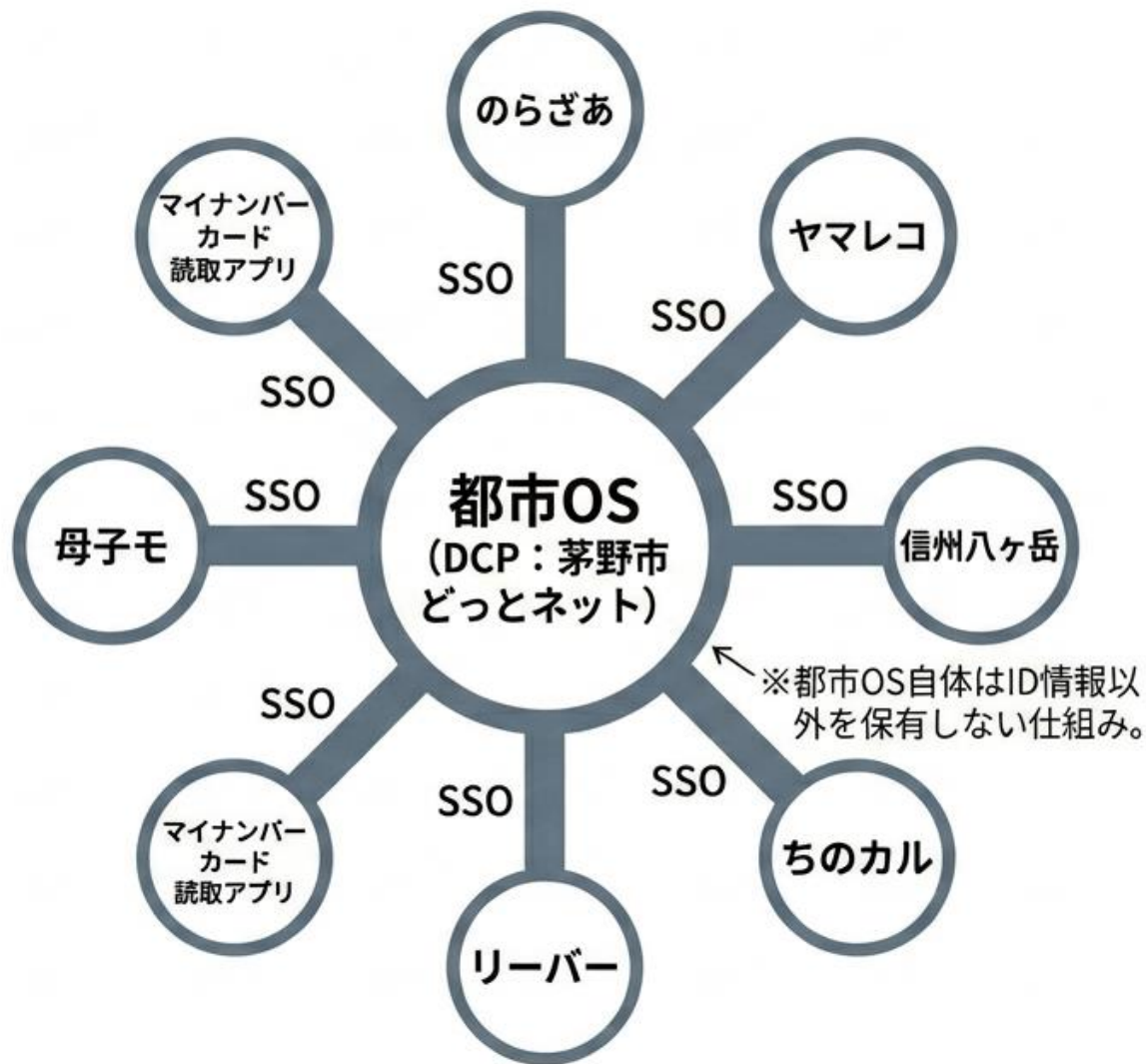
“DX”を支える4つの柱④ – データ連携

市民が自らのデータを必要な時に正しく素早く利用できるように、また、市民自らがいつでもそのデータを確認し、コントロールできるようにオープンで安全なデータ連携基盤を整備します。

一人はみんなのために、みんなは一人のために



茅野市は、令和4年度に、地域DXを推進するための手段の一つとして、**アクセントの都市OS（データ連携基盤）**を導入しています。

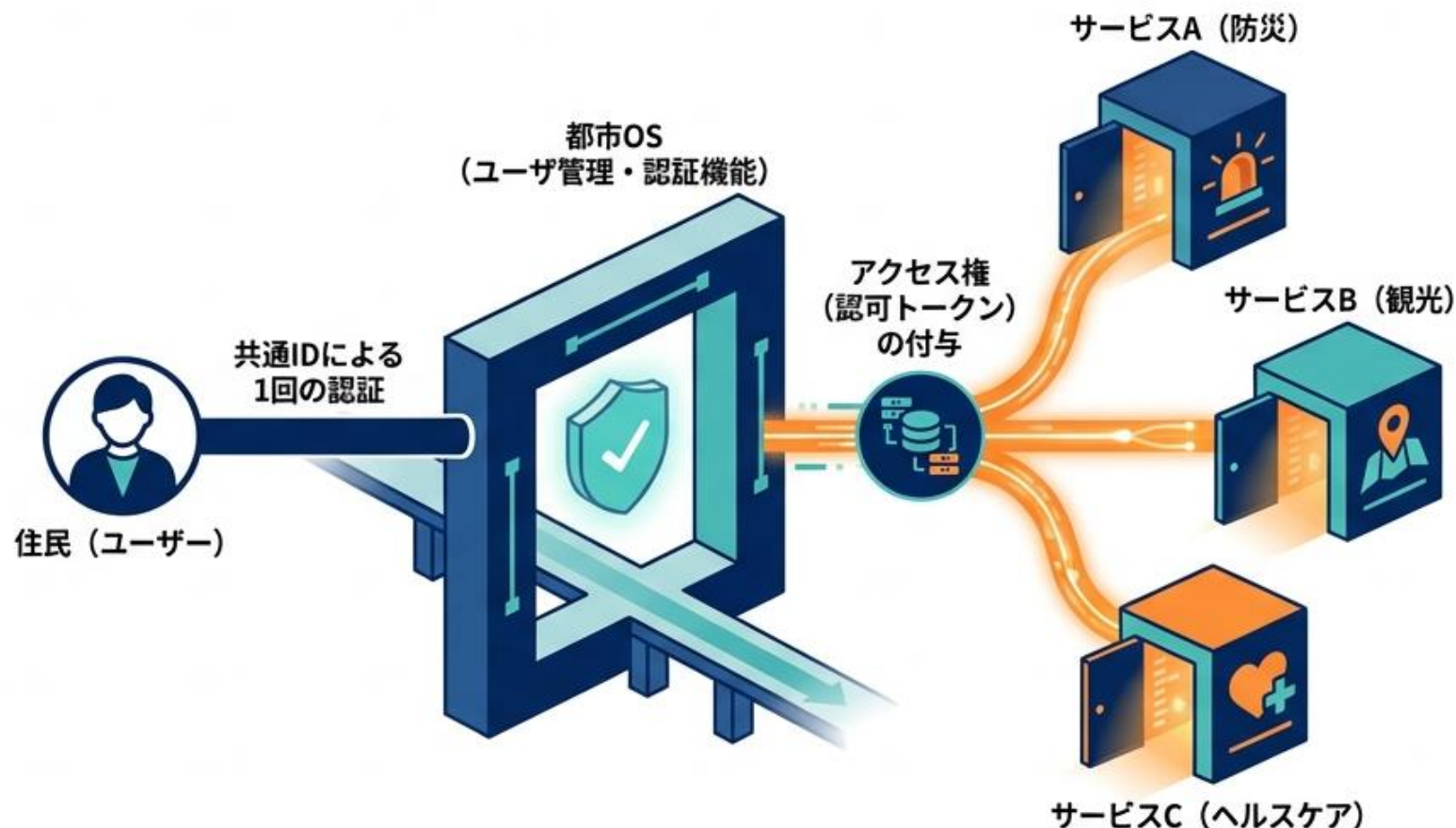
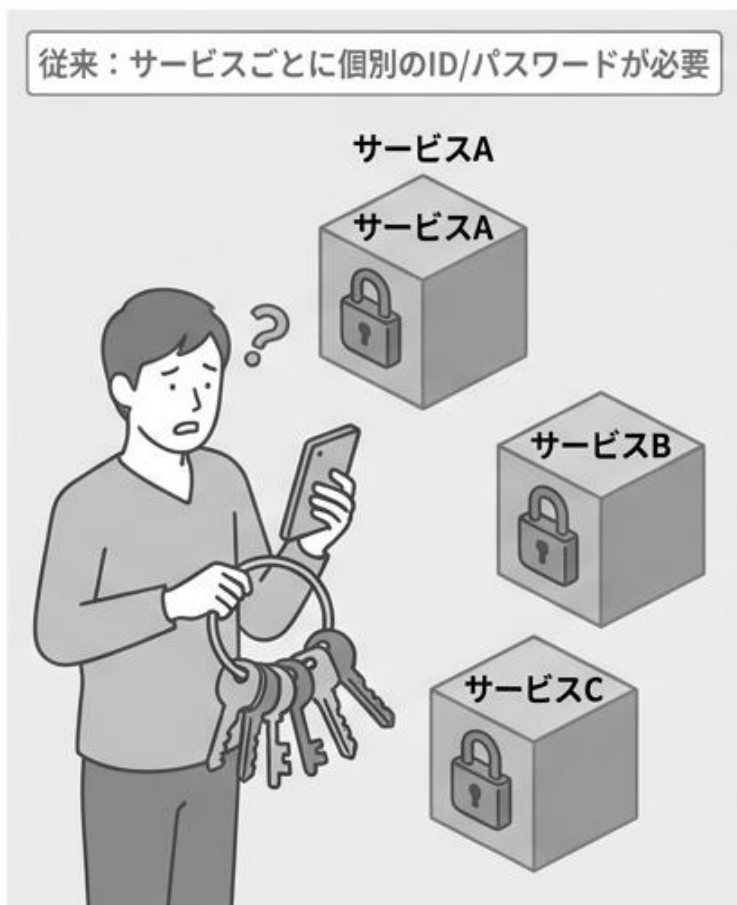


【茅野市が所有する都市OSの主な機能】

- 都市OSに接続したアプリに都市OSIDでログインが可能（シングルサインオン（SSO））
- 都市OSに接続したアプリ間のデータ連携

茅野市が所有する都市OSの主な機能 ①シングルサインオン

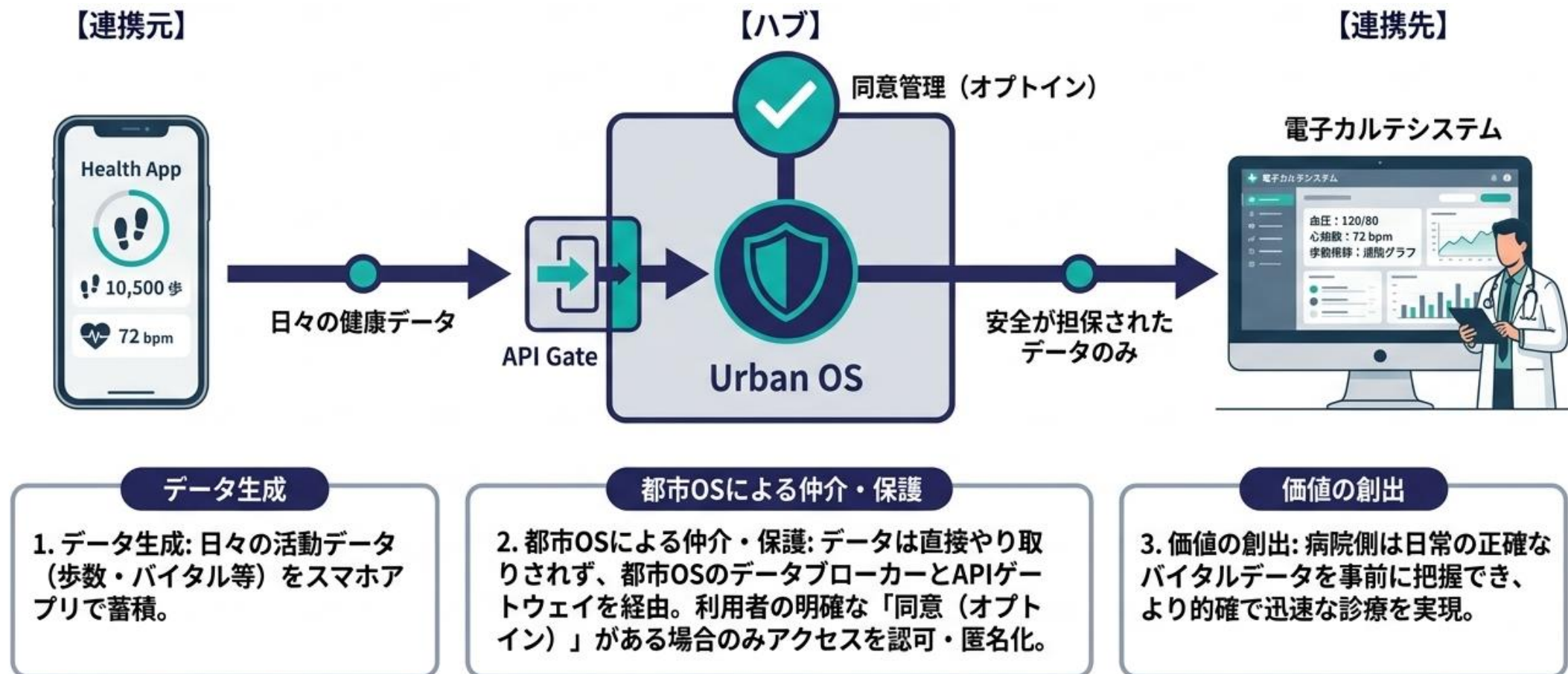
都市OSID（共通ID）1つで、都市OSに接続された様々なアプリにアクセス可能
⇒ユーザーの利便性向上



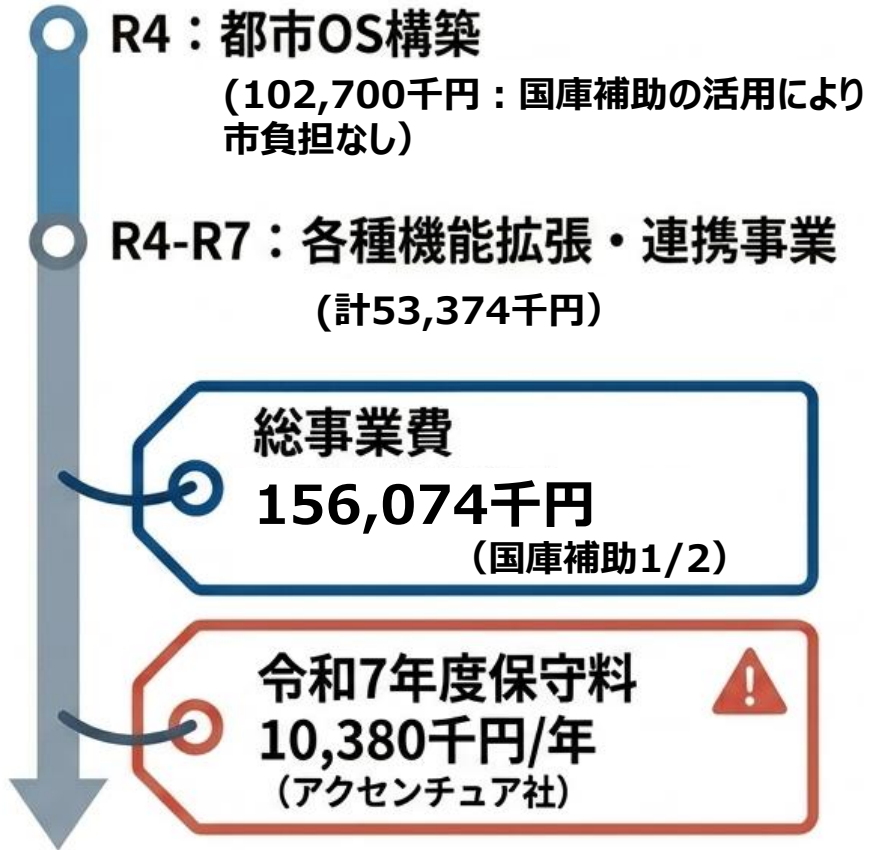
茅野市が所有する都市OSの主な機能 ②アプリ間のデータ連携

個人の同意に基づき、高度なセキュリティとAPI連携によって、異なるアプリ間でデータを安全に連携させることが可能。

(データ連携の例)



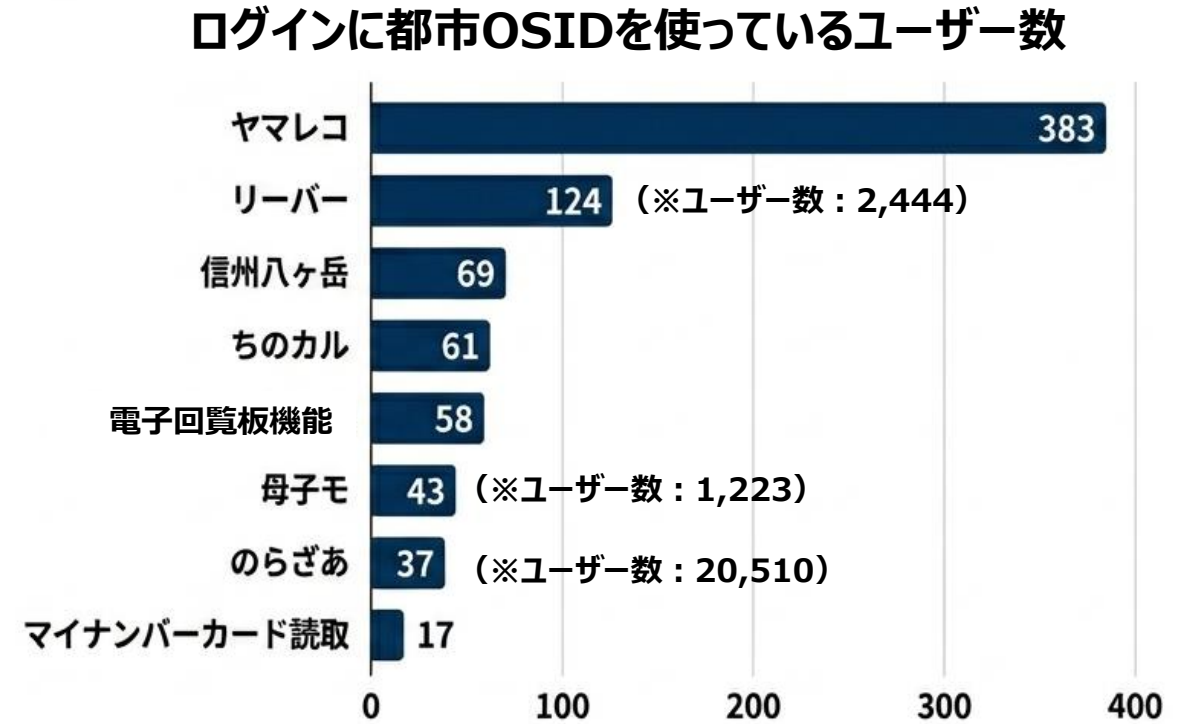
国庫補助を活用し、都市OSの構築・機能拡張を実施（事業費156,074千円）
この他、都市OSのランニング費用として、年間10,380千円（R8～ 8,400千円）



年度	補助	事業内容	事業費
R4	デジ田交付金(1/2) コロナ臨時交付金(1/2)	都市OS構築	102,700千円
R4	デジ田交付金(1/2)	都市OSとのらざあのID連携	2,585千円
R5	デジ田交付金(1/2)	地域コミュニティサービス導入 ※R7年度で廃止	10,186千円
R5	デジ田交付金(1/2)	外部メディア連携サービス調査 検討	4,950千円
R5	デジ田交付金(1/2)	市HP記事連携に係る要件定義	3,905千円
R6	スマートシティ推進事業 補助金(1/2)	リーバー導入、母子モ機能拡張、 両アプリの都市OS接続	22,189千円
R6	デジ田交付金(1/2)	公式HP地域ポータル連携	6,039千円
R7	デジ田交付金(1/2)	メール通知集約化	3,520千円
			156,074千円

各アプリへのシングルサインオンだけではユーザーにとって大きなメリットにはならず、多額の構築費・維持費に対し、**市民の具体的な利用は限定的**です。

都市OSの活用状況（令和8年3月末時点）



R4年度デジ田交付金申請時に設定したKPIと実績（KPI:都市OSID数）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1,500	5,500	16,500
実績	279	1,231	1,867

都市OSの接続しているアプリ

のらざあ、ちのカル、リーバー、母子モ、信州八ヶ岳（観光アプリ）、ヤマレコ
電子回覧板機能（R8.3末で廃止）、マイナンバーカード読取

※アプリ間のデータ連携の実績はなし

利用が伸び悩む背景には、「ユースケースの不在」、「国・民間の動向の変化」、「高コスト」という3つの構造的課題があります。

1. ユースケースの不在



分野横断でパーソナルデータを連携させる具体的な有益事例が全国的にも乏しい。

2. 国・民間の動向の変化



医療・健康分野は、国が主導するPMHやマイナポータル等へ集約される流れ。民間事業者が提供するアプリとマイナポータルとのデータ連携が進むなど動向の変化。

3. 高コスト構造



アプリ1つの都市OS接続に数百万（例：リーバー接続に約580万円、母子モに約650万円）がかかり持続困難。

※接続したアプリ間でデータ連携を行うための経費は別途必要